



山の日制定記念

H28^もり^り森林と木材! フォトコンテスト入賞作品

平成29年度 カレンダー

2017. 4-2018. 3



林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター



「山の日」制定記念「森林と木材！フォトコンテスト」



1. 趣旨 森林が社会にもたらす様々な恩恵や木材利用への関心・理解を深めることを目的として、森林の持つ生物多様性、森林での体験や森林環境教育の活動、木材との触れあいなどの体験を通して、あなたが感動し、伝えたい森林や木材への想いなど、写真とメッセージで表現した作品を募集。併せて、平成28年度より新たに祝日となった「山の日（8月11日）」の普及を目的に実施する。

2. 作品のテーマ・部門

テーマ「あなたが感動し、伝えたい

森林での発見！森林での体験！木材との触れあい！」

部門 ①森林で見つけた動植物（昆虫・動物・植物）

②森林での体験・活動（里山整備、森林環境教育など）

③木材と人との触れあい（木材や木製品・木造建築などと人との触れあい）

3. 募集期間 平成28年6月1日～平成28年8月28日

4. 審査会 平成28年9月2日 近畿中国森林管理局大会議室

応募状況 ①森林（もり）で見つけた動植物（昆虫・動物・植物） 33作品

計66作品 ②森林（もり）での体験・活動 24作品

③木材と人との触れあい 9作品

「写真の表現力・映像の美しさ」・「テーマを表現した組写真であるか」・「作品が伝えるメッセージ」の3点で、総合的に審査を行う。

北海道から宮崎まで1都1道2府16県、61名から作品の応募があり、「年々作品のレベルも上がり、入賞作品の選考が難しくなっている」と審査員から評価。審査の結果、近畿中国森林管理局長賞3作品、優秀賞3作品、審査員特別賞1作品の7作品を決定。

5. 表彰式・発表会 平成28年10月2日（日）

「水都おおさか森林の市」会場で、入賞者と審査員、「ミス日本みどりの女神」飯塚帆南さん、そして森林の市に来場された方々も参加して、表彰式と作品の発表会を開催しました。

初めに、近畿中国森林管理局の馬場局長から「森林や木材との関わりを感じることができる優れた写真や撮られた方のコメントによる想いを通じて、広く多くの方々に森林や木材への関心を持っていただき、また、理解を深めていただきたいとの趣旨でフォトコンを行っている。本日は入賞作品の発表を聴いていただき、一緒に作品への想いと感動を共有していただきたい。」と挨拶。



馬場局長挨拶

作品の発表会では、入賞者による作品に込めた想いを発表し、審査員から「『森林と木材！フォトコンテスト』にふさわしいメッセージ性のある作品ばかりだった。」「『木の温もり』に接することが少なくなってしまうこの時代の中で、色々なことを深く考えさせられた。」「自然を写真に写している間に、自然の持っているストーリーを感じてもらいたい。」などのお話がありました。

また、「水都おおさか森林の市」会場で、全応募作品を展示。多くの方に作品を観てもらえました。作品を通して、森林への関心を高め、伝えることができました。

- 審査員 只木 良也 氏（農学博士・京都府立林業大学校長）
- 久山 慶子 氏（フィールドソサイエティー事務局長）
- 北田 研索 氏（(公社)日本写真家協会会員・宝塚大学特任教授）
- 馬場 一洋 近畿中国森林管理局長

審査員講評

久山 慶子 氏（フィールドソサイエティ事務局長）



「森林と木材！フォトコンテスト」にふさわしいメッセージ性のある写真ばかりでした。25年以上環境学習活動を続けてきて、森からのメッセージが子どもたちの心に届くことがこれからもずっと変わらないテーマであるべきだと感じています。変化する森林の状況を前に、一人ひとりが受け取らなければならないことや社会の課題も変わってきましたが、だからこそ、今も息づく野生と気持ちを通わせながら、それぞれの大切な場所で「人と森との物語」を丁寧に紡ぎ続けることが、今後ますます必要になってくると思うからです。

プレゼンテーションでは木の力強さ、木造の温かさなどが語られ、「里山保育」も提案されていました。愛着をもって同じ環境に通うことで見えてくるものは多く、そこでは、人が森と交わってきた本来の対話が取り戻されていくことでしょう。

タイトルに「木材」の言葉が加えられて、人と森との関係に一步踏み込んだフォトコンテストでした。人の歴史は森と共にあり、人は木材によって暮らしを営んできたのです。私たちはこれからも森にたくさんのことを教わりながら、森林への関わり方を考えていかななくてはなりません。森へ出かけて共に学び合いたいと思います。

只木 良也 氏（農学博士・京都府立林業大学校長）



みごとな作品をたくさん見せていただきました。私も審査をしていて実は楽しかった。

チョット変な話をいたしますと、今、人間社会というものは、だんだん行き詰まり、この先希望がなくなってきたというのが世界的にあちこちで言われ出している。それじゃ、その中で人間が生き延びていくため、人間社会を伸ばしていくためどうしたらいいか。これはやはり、まだ人間がしっかり知らない自然の仕組みを知って、自然を愛する人はたくさんいますが、尊敬できる人は少ない。自然を尊敬して、そのルールを人間活動に活かしていく、こういうことをやっていくことが必要ではないか。こんなことが世界的に今、言われるような世の中になってきました。自然をつぶすことが文明だと思っていたのが、そうじゃなくて、自然の力を活かすことがこれからの人間社会に大切だ、そんなふうに言われるようになってきている。その実現の第一歩は自然を知ること。その自然を知るには、写真というのは非常に有効な手段だと、私は思っている。

初めはただ、きれいだねとか、めずらしいね、これだけが対象かもしれませんが、そのうちにその中に、自然を写真に写している間に、自然の持っているストーリーを感じるようになる。その中の論理がわかってくる。それが物語のよ

うになってくると、自然を理解していくことになっていくのですが、この我々のやっているこのコンテストの基本の形が組写真というところは、その有効な手段ではないかと、そんなふうに考えています。自然の仕組みを知る上でです。

私はこう考えている。いくらキレイな立派な写真でも、それだけでは入賞の対象には私はしません。それともうひとつ応募にあたっては、これはどこのやっている写真コンテストかということをよく知った上で応募して欲しい。そんなことは当たり前とおっしゃるかもしれませんが、作品を見てみると、この森林管理局がやっているコンクールなんです。ただ単に、花が咲いていてキレイだと、それではダメなんです。私はその中に、自然が持っている摂理がわかる、ストーリーがわかる、そういうものが重要なんじゃないか。森の色の薄い写真、木の香りがまったくしないような写真、いくらキレイな花が咲いていてもそれだけではダメ。やっぱり私の審査講評で、去年もこんなことを申しましたが、今年もこんなことをやってみました。

その中で、昨年に引き続いて、今年も特殊な例がひとつありました。特別賞になった作品です。単にキレイな花の写真が3枚揃って出てきた。あれを見ただけで私はそう思っていました。ところが、応募者なんと小学4年生、これは私は非常にうれしかった。将来を楽しみにしています。今年の特別賞にいたしました。

審査員講評

北田 研索 氏（写真家・宝塚大学特任教授）



「森の調査隊!!フォトコンテスト」は、単写真で見せるのではなく3点以内の複数写真で作品を構成するのが決まりで、ある意味少し難しいコンテストです。折角良い被写体に遭遇したのに、同じような角度や距離感・構図で3点並べても作品にはならず、レイアウト（見せる順番）も重要

です。例えば3コマ漫画を作ると考えれば良いと思いますが、個々の写真それぞれ異なった意味内容があり、その3点を順に見た結果で撮影者の言いたいことが伝わるのが組写真です。加えてタイトルと応募規定に明記されている「作品についてのコメント・メッセージ」も審査員にとって大変重要な判断基準ですので軽々に考えないでください。

近畿中国森林管理局長賞になった3作品について簡単に触れますと「森林で見つけた動植物」部門の金田勇希さん「古からの宝物」は、世界遺産白神大地の季節の移ろいをブナの紅葉やそび

え立つ秋田杉の巨木だけでなく朱色鮮やかなアカショウビンの姿を加え、動植物を上手く纏めた作品になっています。「森林での体験・活動」部門の奥村光明さん「森の小さな芸術家たち」は、里山で遊ぶ園児達の姿を全景・中景・クローズアップと組み写真の定石を見事に踏んだフォトストーリーに仕上げました。

また、今回設けられた「木材と人との触れあい」部門には9点の応募しかなかったのは意外で「木材や木製品・木造建築などと人との触れあい」のサブタイトルが案外難しかったのかと感じています。そう言えば自宅近くで新築中の住宅も鉄骨プレハブの二階建て。近年、木造住宅の建築風景もあまり見なくなり、改めて見回すと電柱、看板、公園の遊具・ベンチなども金属やコンクリート・プラスチック製と「木の温もり」に接することが少なくなってしまったこの時代の中で、京都の廃校になった小学校で遊ぶ我が子をテーマにしたこの部門の橋本直子さん「木の学び舎」は、色々なことを深く考えさせられる作品になりました。



ミス日本 2016 みどりの女神 飯塚帆南さん



審査員からのコメント

●近畿中国森林管理局長賞【森林で見つけた動植物】 『古からの宝物』 金田 勇希

貫禄ある樹幹を根元からたどり、梢の葉群を仰ぐ、これは素人にはなかなか思いつかないアングルで、見事な効果。しかし、このスギとブナ2枚に対して、アカショウビンが異質？ だが、撮影日を見て納得、春・夏・秋3部作なのでした。

見事な黄金色に色づいたブナの原生林と、苔むす木肌で堂々とそびえ立つ秋田杉の巨木。それに十二湖の初夏、南から渡ってきたアカショウビンの美しい姿を加え、世界自然遺産白神大地で季節折々に見られる森の顔を上手く表現しています。

●近畿中国森林管理局長賞【森林での体験・活動】 『森の小さな芸術家たち』 いきいき成器保育園 奥村 光明

子どもたちがみんなで大きな木の幹に顔をつけようと思いついたひらめき感や、その完成を見守っていた大人たちのゆったり感が素敵です。大木に触れた気持ちは、しっかりとした苔の感触とともに記憶に刻まれたことでしょう。

「里山の自然の中で、たくましい心と体を育む里山保育」を謳う「いきいき成器保育園」。苔に包まれたタモの大木の太い幹をキャンバスに、小枝や落ち葉で顔を作って遊ぶ園児達の鎮守の森体験活動の様子を3枚組のフォトストーリーに上手くまとめています。

●近畿中国森林管理局長賞【木材と人との触れあい】 『木の学び舎』 橋本 直子

昭和初期生まれにとっては、懐かしさ満々の写真。当時の木造校舎の子供たちには、コンクリート校舎こそ近代化のシンボル、憧れの存在でした。時を経た今になって気づく木造の良さ、柔らかさ、暖かさ……。いつまでも伝えたい。

2003年廃校になった田山小学校（京都府南山城村）は木造校舎がそのまま保存され、物作り体験施設や映画のロケなどに使われています。兵庫県から訪れた作者は、校舎の木のぬくもりにはしゃぐ我が子の楽しげな姿の中に、この古い建物が過ごした年月への想いを重ね、愛情溢れる目線で写真にしました。ただあと、木造校舎の全景も見たいところですよ。



審査員からのコメント

●優秀賞【森林で見つけた動植物】 『近くの森の動物達』 太田 和夫

タイトルに「近くの森」とあるところがポイントでした。都市の傍らでこんな哺乳類が生き続けていることを報せてくれます。サルの親子やテンの眼差しには惹きつけられ、ルリタテハの目には生物の一途さを感じました。

エキスポ'90箕面記念の森は車でないと少し行きづらい山の上であり、整備されている割には野鳥や動物に出会える機会も多い穴場的な所です。そこで撮られた3枚、特に餌やりが禁止され箕面の滝周辺では殆ど出会えなくなった猿、それも親子の姿が良いですね。

●優秀賞【森林で見つけた動植物】 『森は生きている』 佐伯 範夫

人工林であっても下生えが失われなければスギと広葉樹の落ち葉が重なって陸貝の生息を守り、ヒメボタルが飛び交うのでしょう。たくさんの光は土壌動物が豊かな森林本来の生態系を象徴しています。大切にしたい風景です。

鳥取県日南町山中に三脚で固定したカメラを構え、夜間一定の間隔と露出でシャッターを何百枚も切り、その明るく写った部分だけをパソコン合成し1枚の写真にするデジタルテクニック（比較明合成）で、真っ暗闇の中、沢山のヒメボタルが発光する幻想的な光景を創り出しています。その対としてホタルが住むとは気づく人もいない昼間の写真を並べたアイデアが良かった作品です。

●優秀賞【森林で見つけた動植物】 『枯木の象形』 湯川 喜義

枯木の写真2枚。見事。自然が生んだ芸術的造形。かなりの大木だった、それが生きていた時間、枯死後ここまでに至る時間、自然の造形の規模の大きさに感嘆。「森といえば緑」その常識を逆手に取った、いやそれを超越した作品。

威嚇するマンモスに待ち構える巨大な白蛇？登山中に突然出会う異様な姿の枯木の巨木たち。木々がそんな形になって行く時の流れに思いを馳せ、自然との会話を楽しみながら2000mを超える山に行く作者の姿が思い浮かぶような作品になっています。

●審査員特別賞【森林で見つけた動植物】 『白山高山植物園の花』 矢田 玲士（小学生）

植物の器官である花の目的は人の視覚に映えることではありません。けれども、花の姿を心に留められるのが人のすばらしさです。これから、様々な生き物との関係を感じながら野山で生きる花々の美しさを沢山発見してください。

植物園は1998年、当時の石川県白峰山村で高山植物馴化試験が始まり、現在7600㎡の山腹に約50種類10万株の白山高山植物のお花畑になっています。毎年通っている玲士君が写真の撮り方をお母さんに教わりながら撮影した3枚、小学生らしい素直なカメラワークが光ります。

平成28年度 山の日制定記念
「森林と木材！フォトコンテスト」 入賞作品一覧

 <p>近畿中国森林 管理局長賞</p>	<p>【森林で見つけた動植物】 『古からの宝物』 金田 勇希（秋田県能代市）</p>	<p>カレンダー 11月掲載</p>
 <p>近畿中国森林 管理局長賞</p>	<p>【森林での体験・活動】 『森の小さな芸術家たち』 いきいき成器保育園 奥村 光明（鳥取県鳥取市）</p>	<p>カレンダー 4月掲載</p>
 <p>近畿中国森林 管理局長賞</p>	<p>【木材と人との触れあい】 『木の学び舎』 橋本 直子（兵庫県西宮市）</p>	<p>カレンダー 8月掲載</p>
 <p>優秀賞</p>	<p>【森林で見つけた動植物】 『近くの森の動物達』 太田 和夫（大阪府吹田市）</p>	<p>カレンダー 9月掲載</p>
 <p>優秀賞</p>	<p>【森林で見つけた動植物】 『森は生きている』 佐伯 範夫（島根県安来市）</p>	<p>カレンダー 7月掲載</p>
 <p>優秀賞</p>	<p>【森林で見つけた動植物】 『枯木の象形』 湯川 喜義（長野県木曾郡木祖村）</p>	<p>カレンダー 5月掲載</p>
 <p>審査員特別賞</p>	<p>【森林で見つけた動植物】 『白山高山植物園の花』 矢田 玲士（小学生／石川県金沢市）</p>	<p>カレンダー 6月掲載</p>



応募作品の展示（「水都おおさか森林の市」会場：近畿中国森林管理局森林のギャラリー）

平成28年度 森林と木材！フォトコンテスト

主催：林野庁 近畿中国森林管理局

後援：近畿農政局 / 公益社団法人日本写真家協会 / 公益社団法人国土緑化推進機構 / 特定非営利活動法人地球緑化センター / 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
局管内2府12県森林組合連合会等〔森林組合連合会（石川県・福井県・三重県・滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県・兵庫県・鳥取県・島根県・岡山県
広島県・山口県）、大阪府森林組合〕、局管内2府12県木材協同組合連合会等〔石川県木材産業振興協会、木材組合連合会（福井県・京都府・岡山県・広島県）
木材協同組合連合会（三重県・奈良県・和歌山県・鳥取県）、木材協会（滋賀県・島根県・山口県）、大阪府木材連合会、兵庫県木材業協同組合連合会〕
朝日新聞社 / 産経新聞社 / 日本経済新聞社大阪本社 / 毎日新聞社 / 読売新聞 / NHK大阪放送局